



(3) 丸山古墳

九州産の石でできた石棺のある円墳

Q1 丸山古墳とは、どんな古墳なの？

A1 室本町にある標高40mの丸山の頂上部にあります。

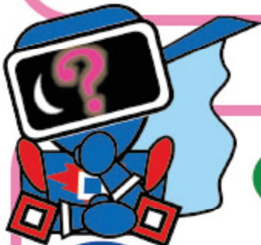
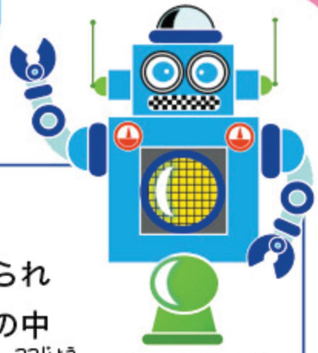
直径35m、高さ4mで、5世紀の中ごろにつくられたと考えられています。中四国地域で最古級の横穴式石室があります。石室の中には石棺が残っています。長さ192cm、幅105cmあり、両端に筒状の出っ張りがあります。石棺のふたは屋根のような形をしています。身の部分は船底形をしており、亡くなった人が納められるように石をくりぬいてつくられています。使われているのは九州産の阿蘇石で、四国では4例しかありません。石に加工したあとが残っていることもこの石棺の特徴です。



丸山古墳の石室・石棺



加工された石棺



Q2 丸山古墳からは、どんなものが出てきたの？

A2 鉄刀などの鉄器が出てきています。そのほかにも完全な形ではありませんが、埴輪には動物をかたどったものもあります。



出土した鉄の刀



出土した動物埴輪

